

人的ハザードに関する研究

中 林 真理子

研究初年度の本年は、保険学の領域での従来からの研究成果の再検討により、問題の所在を明確にした。この領域での研究は、保険市場で保険者が実務上直面するハザードを対象にしたものである。このため、保険市場における「契約当事者間での契約者側への契約者の個人情報」の偏在が契約者のモラルハザードを引き起こすことを問題とする。この際発生原因が故意・悪意という主観的判断に加え、重過失と認定されるかどうかで、モラルハザードとモラールハザードが分類される。しかし両者はともに、契約者の行為の結果として損失を生起拡大させるハザードである。このため、保険者による識別は困難である。そして、情報の経済学での成果を用いて、発生メカニズムの論理的説明は可能になったものの、逆に発生原因への言及は行われなくなった。しかし情報の経済学でモラルハザードとされる事例には、契約者のモラールハザードに分類可能なものが多く含まれる。

対象領域が保険市場から拡大すると、対象とする情報の内容、当事者の関係は多様化する。また保険市場での議論では想定されなかった人的ハザードへの言及も必要となる。しかし、このような人的ハザードに対し、一様に「モラルハザード」の名称が用いられる。従ってモラールハザードの概念的枠組みを明確にすることが混乱の解消につながる。

また、企業不祥事との関連から、企業経営において経営者の経営判断上のハザードが問題視されている。「企業活動への公的保護等の存在が原因の経営者の職務怠慢」は「モラルハザード（倫理の欠如）」とされる。これは経営者の結果的な判断ミスとは区別すべきものであり、分類基準として企業倫理という観点が必要となる。

次年度においては、企業を対象に、リスクマネジメントの観点から人的ハザードの概念的枠組みを再検討する。これにより、より有効な対応策を示していきたい。企業組織を対象に、人的ハザードの実態とそれへの対処法について考察する。特に現在最も深刻な人的ハザードと捉えられる、企業倫理上の課題事項への対処法を中心に述べていく。昨今多発する企業の不祥事は倫理的課題事項が顕在化したものである。このようにリスク類概念を用いて不祥事を捉えることが、対処法を見出すことにつながる。人的ハザードとして企業倫理上の課題事項に取り組むことが、企業にとってのリスクマネジメントとなる。このような対応が長期的には企業の生産性を高め、より積極的効果をもたらすことを示す。以上の成果は保険契約にフィードバックされる。そして保険市場の健全な運営こそが社会的厚生を高めることを明らかにする。この際、具体例として保険企業を取り上げる。保険企業特有の問題と企業全般に該当する問題を区別することが、学問領域による概念的混乱を解消する上で有効となる。

今年度に引き続き文献のサーベイを中心に研究を実施する。事例研究では、インターネット等を活用し最新のデータを収集する。また、今年度閉館中につき未実施となった専門図書館での調査を行う。そして収集したデータの十分な検討を行い、具体的な成果を論文として発表する予定である。